



富士市都市計画マスタープラン － 第1回市民懇話会 －

令和4年5月18日（水）
富士市 都市整備部 都市計画課

1/56

はじめに

都市計画というと、皆様に「難しいのでは」と思われていることは十分認識しています。

しかし、都市計画は将来を見据え、土地の使い方や建築物のルールを定めたり、道路や公園等の必要な施設を計画するなど、市民の生活や仕事等とは密接な関係にあります。

市は、丁寧な説明を心掛けていきますので、皆様には、日頃感じていることや、将来、どのように取り組むべきかなど、多くのご意見をお願いしたいと思います。

2/56

1. 都市計画マスタープランとは
2. 策定（改定）の必要性
3. 現行プランの内容（具体的な取組）
4. 富士市の現状
5. 市民の意向
6. 都市づくりの動向・トレンド

1. 都市計画マスタープランとは

- ▶ 都市計画マスタープランの位置づけ
- ▶ 計画の役割

- 都市計画マスタープランは、都市計画法第18条の2に規定されている「市町村の都市計画に関する基本的な方針」です。
- 富士市都市計画マスタープランは、概ね20年後を見据えた、富士市の都市計画の最上位計画です。

◀ 富士市では ▶

国勢調査の結果等を踏まえ、
平成15（2003）年度に初めて策定し、
平成25（2013）年度に2度目のプランを策定しています。

年度	H12 (2000)	H13 (2001)	H14 (2002)	H15 (2003)	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
都市計画 マスタープラン				策定 ○				富士市・富士川町合併 ★						策定 ○										策定 ○
国勢調査	調査					調査					調査					調査					調査			
総合計画	第四次 ○										第五次 ○												第六次 ○	
国土利用計画						第三次 ○				第三次 (改定版) ○					第四次 ○							第四次 (改定版) ○		

上位・関連計画等との関係性

- 都市計画マスタープランの検討にあたっては、上位計画に即しながら、また、関連計画と整合・連携を図りながら策定します。

上位計画

- 岳南広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（県）
- 富士市総合計画
- 国土利用計画（富士市計画） 等

即す

富士市都市計画マスタープラン

↳ 市が行う都市計画の最も基本となる計画

▼ 具体・具現化版

富士市集約・連携型都市づくり推進戦略

富士市立地適正化計画

市街化調整区域の土地利用方針

整合
連携

関連計画

- 富士市SDGs未来都市計画
- 富士市農業振興地域整備計画
- 富士市環境基本計画
- 富士市地域防災計画
- 富士市緑の基本計画
- 富士市住宅マスタープラン
- 富士市地域公共交通計画
- 富士市景観計画
- 富士市工業振興ビジョン
- 富士市地域福祉計画
- 富士市観光基本計画
- 富士市生活排水処理長期計画
- 富士市情報化計画 等

長期的な都市づくりの考え方の明確化

- 都市計画マスタープランは、将来目指すべき都市の姿を「将来都市像」として定め、その実現に向けた長期的な都市づくりの考え方を明らかにするものです。

都市計画の決定・変更の際の根拠

- 都市計画マスタープランは、市町村が行う個別具体の都市計画（土地利用・都市施設・市街地開発事業・地区計画）の決定や変更の際の根拠となるものです。

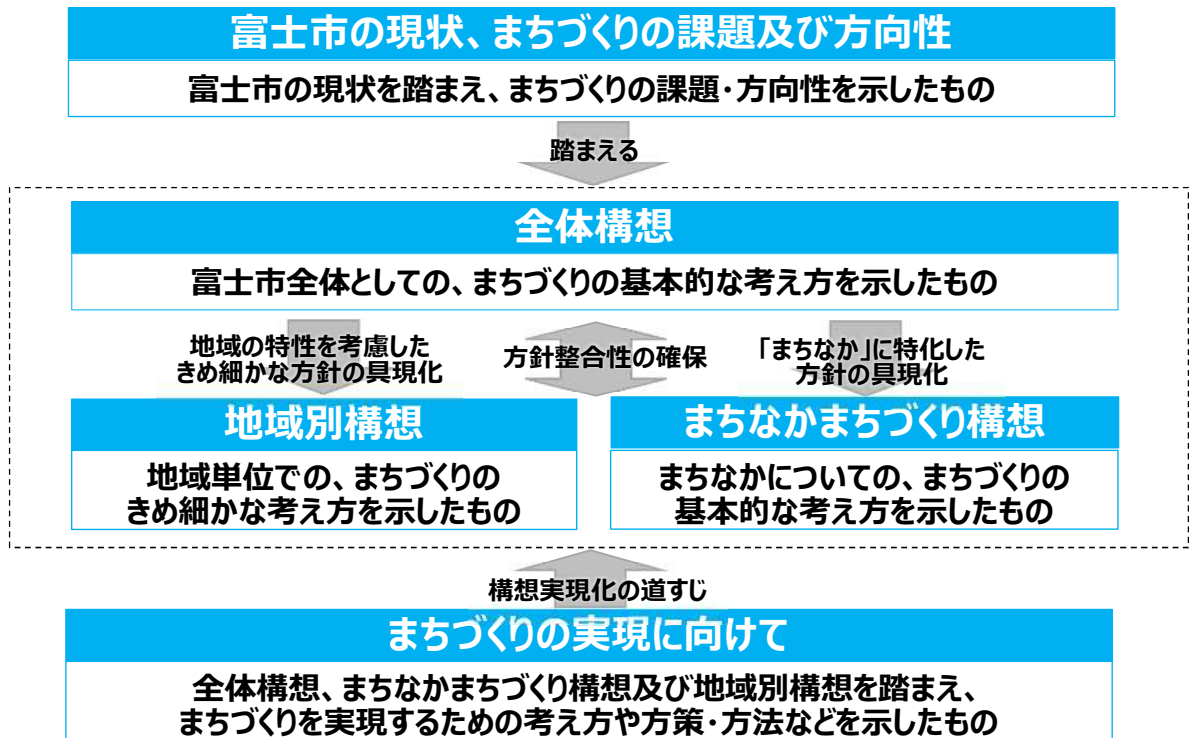
都市づくりの担い手のガイドライン

- 都市計画マスタープランは、市民・事業者・行政など、都市づくりの担い手の連携のあり方や進め方、また具体的な実現方策等を示した「都市づくりガイドライン」として共有・活用されるものです。

2. 現行プランの内容

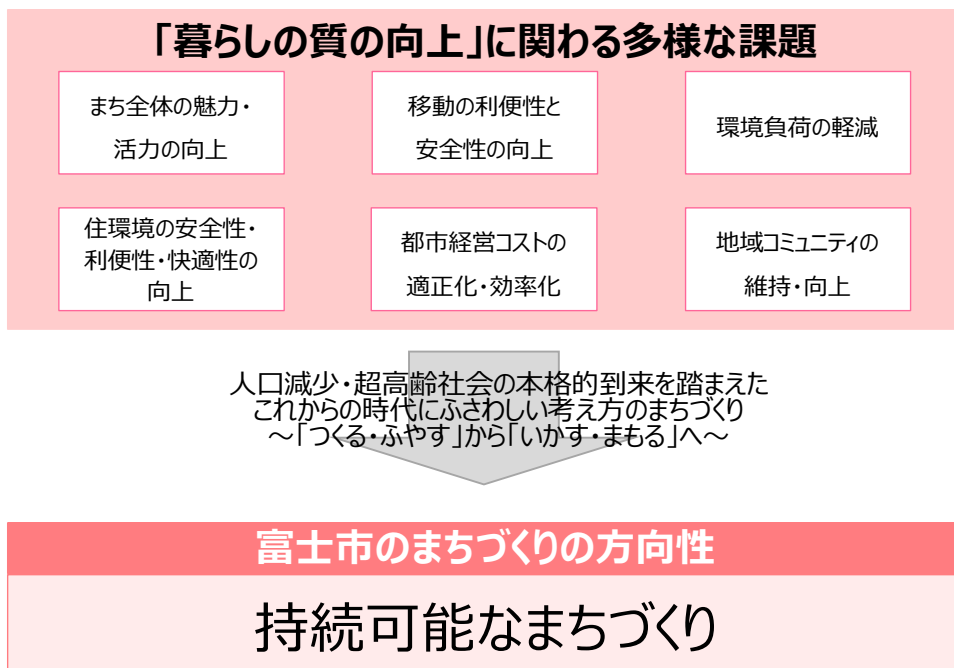
- ▶ 都市計画マスタープランの構成 ▶ 全体構想
- ▶ 地域別構想 ▶ まちなかまちづくり構想

- 現行都市計画マスタープランは、「富士市の現状」、「まちづくりの課題及び方向性」を踏まえた「全体構想」・「地域別構想」・「まちなかまちづくり構想」と構想実現化の道筋である「まちづくりの実現に向けて」で構成しています。



まちづくりの方向性

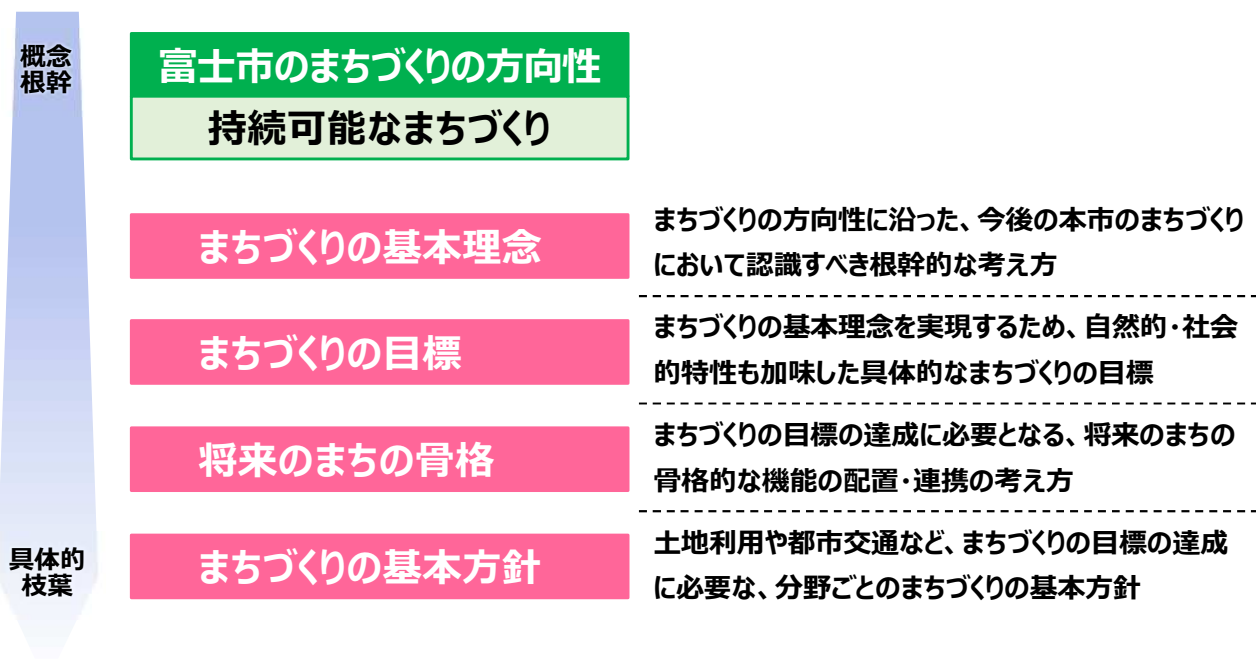
- 本市が抱えるまち全体の魅力・活力の向上や住環境・移動環境の向上等、「暮らしの質の向上」に関わる多様な課題を踏まえ、まちづくりの方向性を「持続可能なまちづくり」に設定しています。



- 全体構想は、今後の本市のまちづくりの考え方を全市的・長期的な観点で定めたものです。

≪ 全体構想の構成と概要 ≫

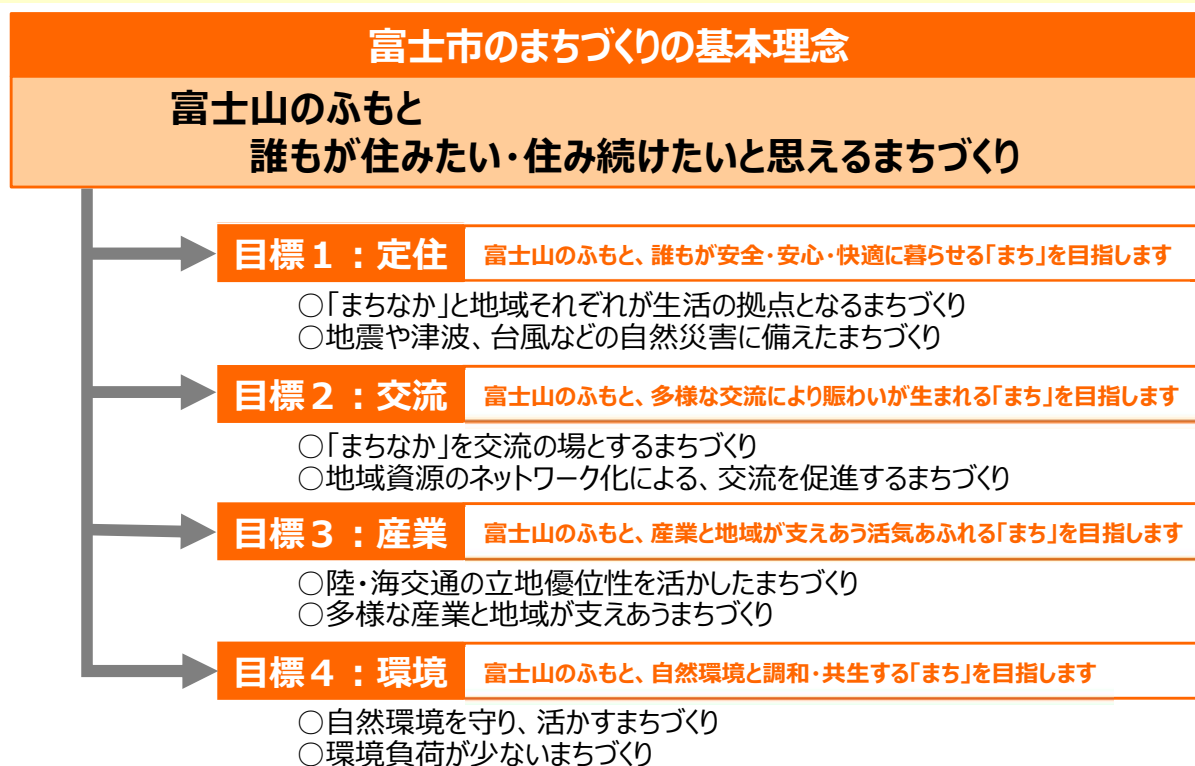
全体構想



11/56

まちづくりの基本理念・目標

- まちづくりの方向性に沿った、今後のまちづくりにおいて認識すべき根幹的な考え方をまちづくりの基本理念として設定し、「定住」「交流」「産業」「環境」の4つの視点から、具体的なまちづくりの目標を設定しています。



12/56

将来のまちの骨格

- 「まちづくりの基本理念」のほか、将来の都市の骨格的な機能の配置・連携の考え方等を踏まえ、将来のまちの骨格図を示しています。

富士市のまちの骨格形成の考え方

富士山の恵みを活かした、
集約・連携型のまちづくり

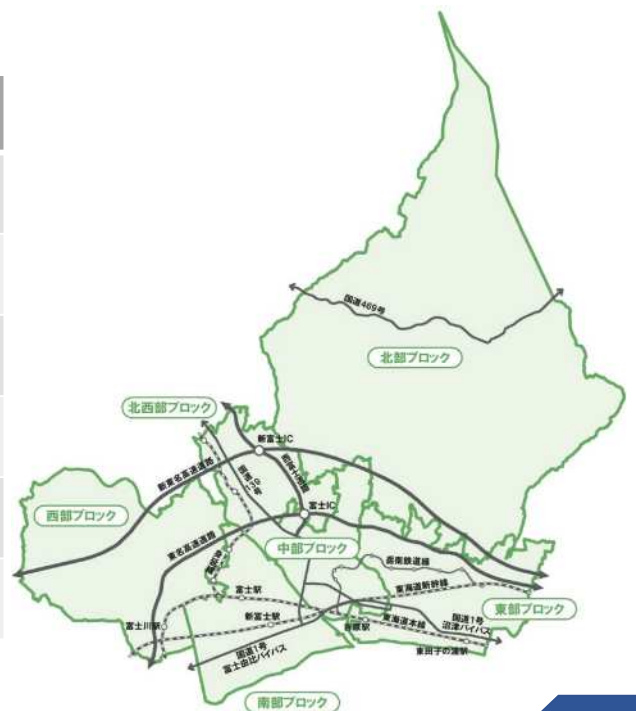


◀ 将来のまちの骨格図 ▶

- 地域別構想は、全体構想に即しつつ、地域の特性や特徴を踏まえた個性的かつきめ細かなプランです。
- 地域とは、「富士市地区まちづくりセンター条例施行規則」の別表に掲げられた、まちづくりセンターのグループを参考に区分した6地域です。

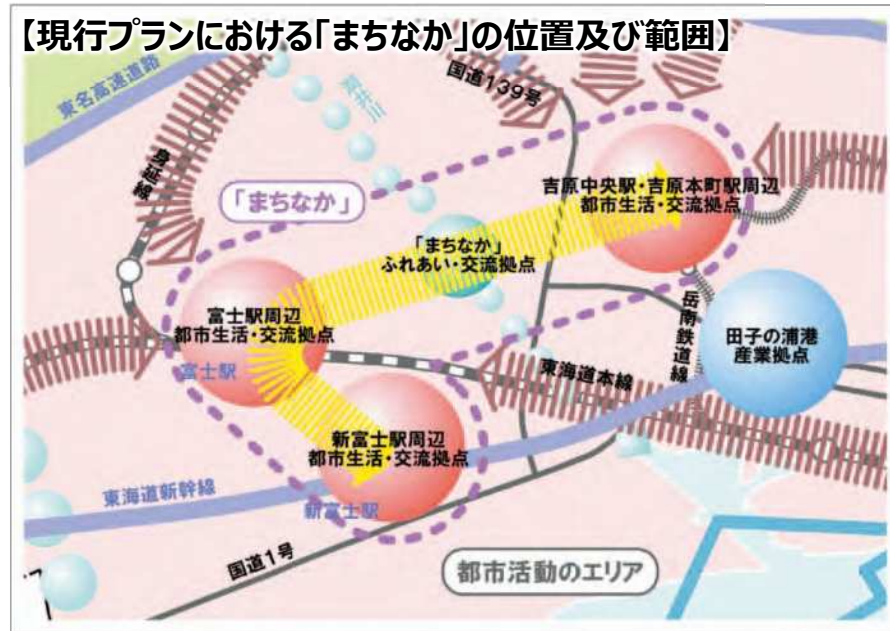
地域別構想

地域	まちづくりセンター
南部ブロック	富士駅北、富士北、富士駅南、田子浦、富士南
中部ブロック	吉原、伝法、今泉、青葉台
東部ブロック	吉永、元吉原、須津、浮島、原田
西部ブロック	岩松、岩松北、富士川、松野
北部ブロック	富士見台、神戸、吉永北、大淵
北西部ブロック	鷹岡、広見、天間、丘



出典：富士市地区まちづくりセンター条例施行規則
(一部加工)

- まちなかまちづくり構想は、全体構想に即しつつ、全体構想の「まちなか」に関する方針を掘り下げ、「まちなか」に特化したより具体的なプランとして確立したものです。
- まちなかとは、「富士駅周辺、吉原中央駅・吉原本町駅周辺、新富士駅周辺を結んだエリアー帯」を位置付けています。



3. 策定（改定）の必要性

- ▶ 策定（改定）の目的
- ▶ 市民懇話会の役割

- ▶ 策定体制
- ▶ 策定スケジュール

都市計画マスタープランは、概ね20年後の将来を見据えたプランであり、現行プランは、2034年を見据えた計画です。

《 現行プラン策定後 》

都市の魅力と活力の向上や、市街地拡大の抑制を図るなど、人口減少時代を前提とした集約・連携型都市づくりを進めています。

- 策定から約10年が経過し、都市を取り巻く環境が変化しています。
⇒ SDGsの達成 脱炭素社会の形成 デジタル社会の実現
昨今の自然災害の頻発・激甚化を踏まえた最新の災害リスク
新型コロナウイルスの感染拡大等を背景とした社会動向の変化 等
- 富士市の最上位計画である第六次総合計画を策定しました。

今後の社会・経済情勢等に対応した集約・連携型都市づくりを更に進めるため策定（**チューンアップ**）いたします。

チューンアップのイメージ

- 現行プランの視点と目標に重視する観点を加え、基本方針ごとのポイントを整理した上で、昨今の社会・経済情勢等を踏まえチューンアップします。

現都市計画マスタープランの目標

基本理念

富士山のふもと 誰もが住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり

視点と目標

- 「定住」の視点 富士山のふもと、誰もが安全・安心・快適に暮らせる「まち」
- 「交流」の視点 富士山のふもと、多様な交流により賑わいが生まれる「まち」
- 「産業」の視点 富士山のふもと、産業と地域が支えあう活気あふれる「まち」
- 「環境」の視点 富士山のふもと、自然環境と調和・共生する「まち」

加える

重視する観点

- ▶ 人口減少下における更なる持続可能性の追求
- ▶ 新型コロナウイルスの感染拡大を契機とした今後の都市づくりの追求
- ▶ 富士市の地域特性を踏まえた都市づくりの追求

キーワード

コンパクト・プラス・ネットワーク 安全・安心 SDGs
カーボンニュートラル ニューノーマル 高速交通 DX

チューンアップのポイント

土地利用

都市のスポンジ化の進行への対応
新たな産業の誘致や創造 等

都市交通

まちなかウォークアブルの推進
MaaS等の最新技術の活用 等

都市環境

カーボンニュートラルの推進
富士愛鷹山麓地域の自然環境の保全 等

都市防災

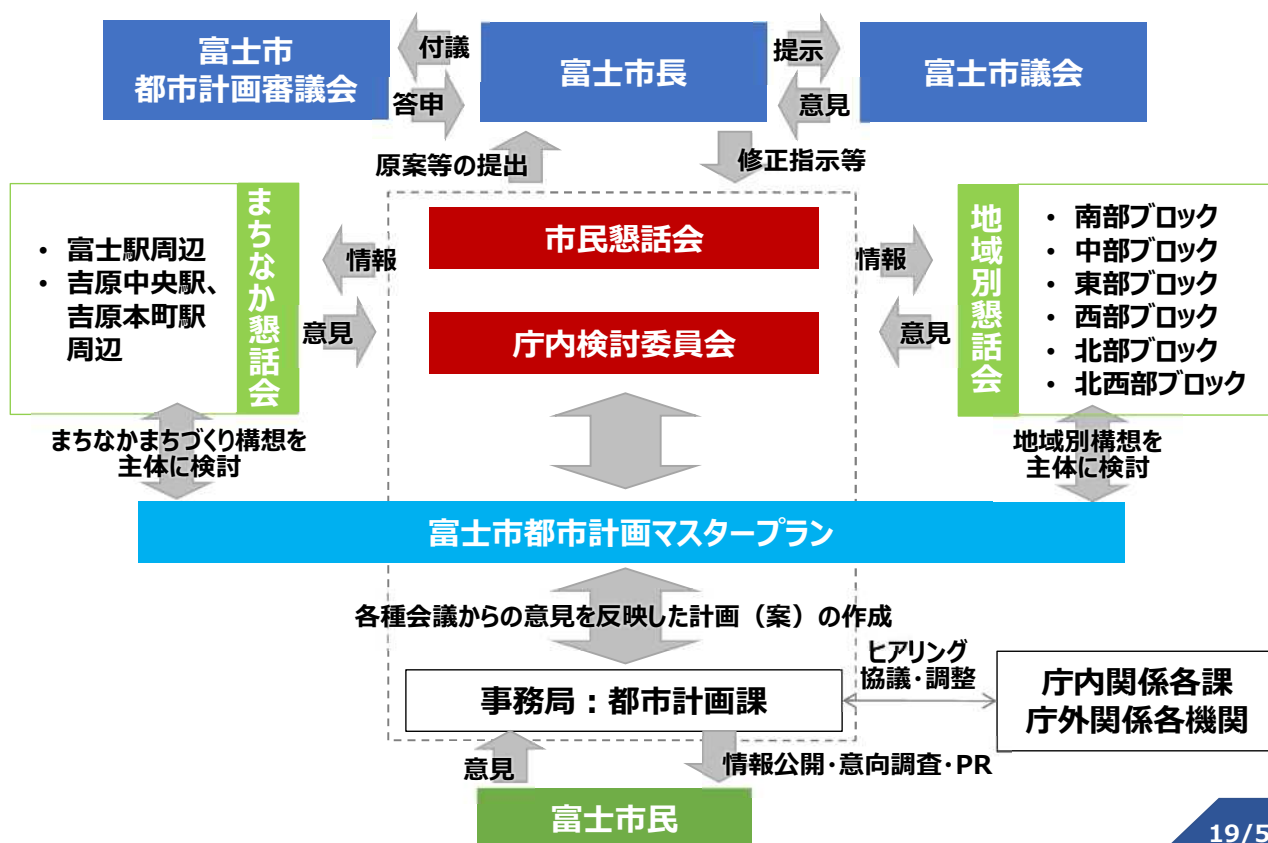
国土強靱化の推進
事前都市復興の推進 等

都市景観

グリーンインフラの戦略的活用や充足
自然・風土・歴史的な景観の形成や保全 等

- 現行プランと同様の体制で、多くの方の意見を伺い、その意見を反映しながら策定します。

策定体制



市民懇話会の役割

市民懇話会は、計画内容を決める機関(会議)ではありません。

事務局(市)が示す内容に関して、意見をいただく場です。

それぞれの立場から、日頃感じていることや、今後富士市がどのような姿になって欲しいかなど、将来の本市がより良い都市となるよう、幅広くご意見をいただきたいと思います。

市民懇話会の構成

- 市民懇話会は、政策決定過程の透明性の向上や市民参画の機会拡充のため公募登録している市民のほか、学識経験者や各種団体からの推薦者で構成します。

区分	人数	備考
学識経験者	2名	
各種団体推薦者	9名	岳南電車株式会社 富士市社会福祉協議会 富士商工会議所 富士伊豆農業協同組合 富士建築士会 富士市町内会連合会 富士市地域防災指導員会 富士山観光交流ビューロー 富士自然観察の会
公募市民	4名	
合計	15名	男性8名、女性7名

21/56

- 改定プランは、令和3年度から令和5年度にかけての3か年の予定で策定作業を進めます。

策定スケジュール

	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
作業の大まかな流れ	全体構想	地域別構想 まちなかまちづくり構想 実現化方策	原案とりまとめ パブリックコメント 都市計画市議会 付議・答申 富士市議会 報告・意見
検討会議など	庁 庁	庁 庁 市 市 地 地 地 まちなか まち まち まち 本日	庁 市 庁 市

庁 …庁内検討委員会

地 …地域別懇話会（6地域）

市 …市民懇話会

まちなか …まちなか懇話会（2地域）

22/56

4. 富士市の現状

▶ 富士市の現状

23/56

- 富士市の現状について、次の8つの視点から整理します。

1 人口、世帯

2 産業

3 地価

4 土地利用

5 都市交通

6 都市環境

7 都市防災

8 都市景観

都市の基本的な情報

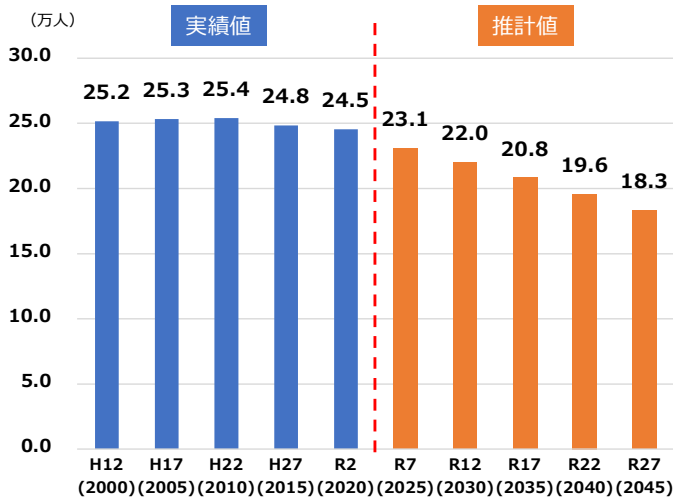
現行プランの基本方針の項目

1

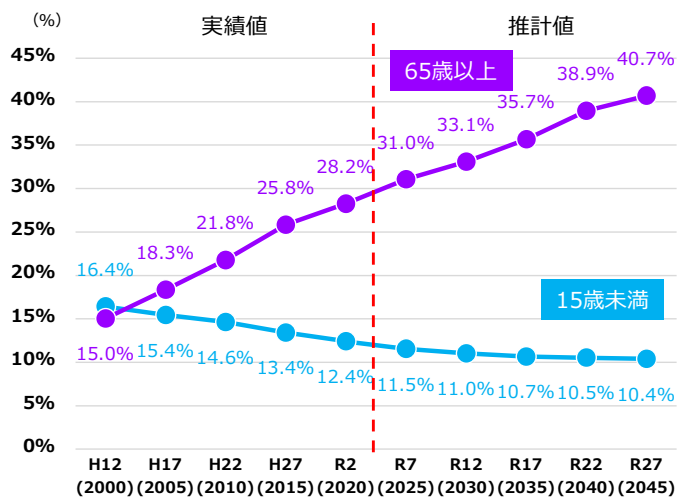
人口、世帯（人口）

- 人口はH22（2010）年をピークに減少傾向、R27（2045）年には18.3万人（183,328）人まで減少する見込み
- R27（2045）年の高齢化率は、15歳未満の約4倍の40.7%まで上昇する見込み

《 人口 》



《 高齢化率等 》



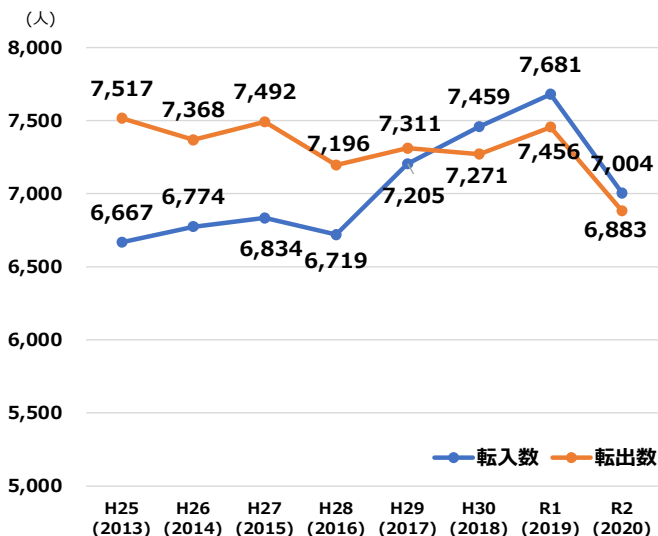
出典：【推移】国勢調査（H12～R2） 【推計】国立社会保障・人口問題研究所

1

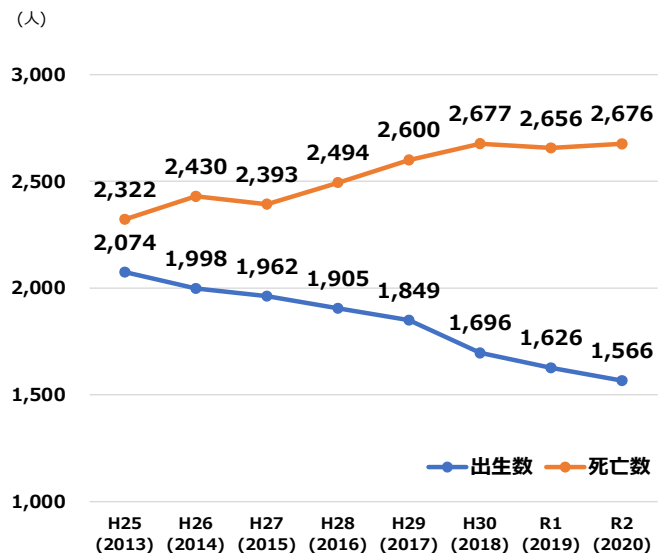
人口、世帯（社会増減）

- 社会増減は転出超過から転入超過に転じており、転入数は増加傾向であったが、R2（2020）に減少、転出数も同様に減少傾向
- 自然増減は、出生数が減少傾向、死亡数は増加傾向

《 社会増減 》



《 自然増減 》



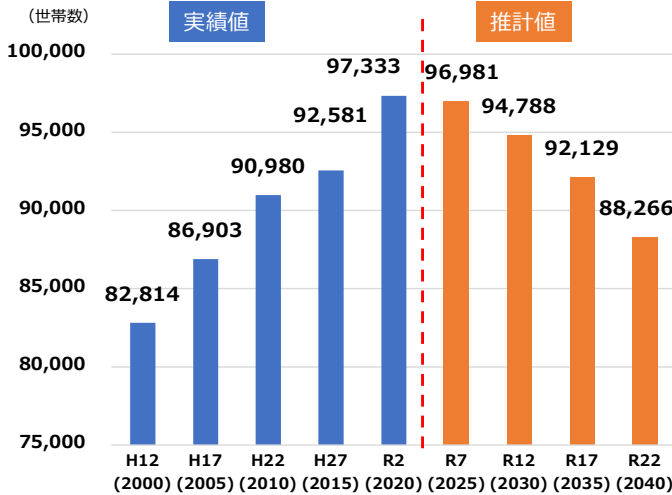
出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査

1

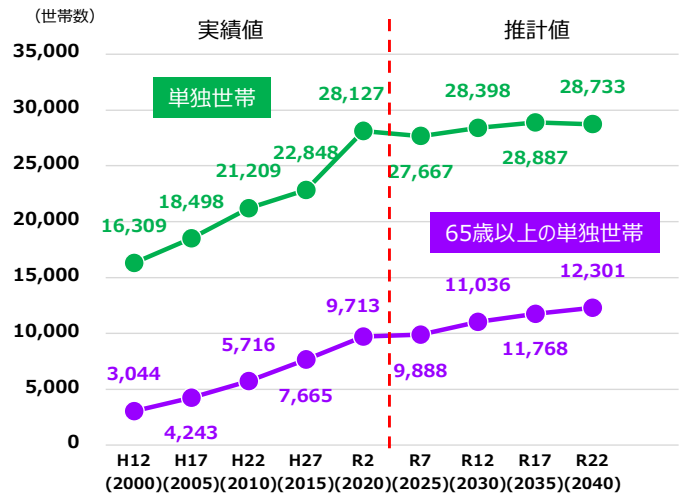
人口、世帯（世帯）

- 世帯数は、R2（2020）年まで増加したが、以降、減少の見込み
- 単独世帯数は、今後、横ばいの見込みだが、世帯主が65歳以上の単独世帯数は、R22（2040）年には約12,000世帯まで増加する見込み

世帯数



単独世帯数



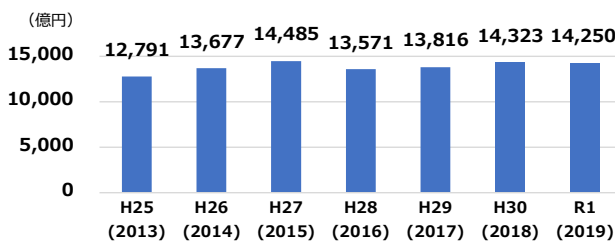
出典：【推移】国勢調査（H12～R2） 【推計】国立社会保障・人口問題研究所

2

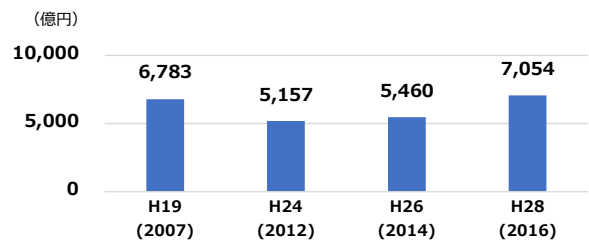
産業

- 製造品出荷額は増加傾向にあるが、工業事業所・従業者数は減少傾向
- 商品販売額及び商店・従業者数は、近年は増加傾向

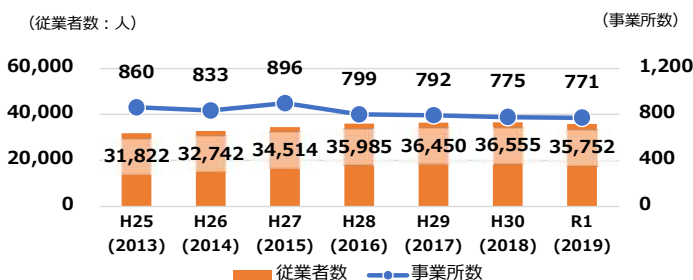
製造品出荷額等



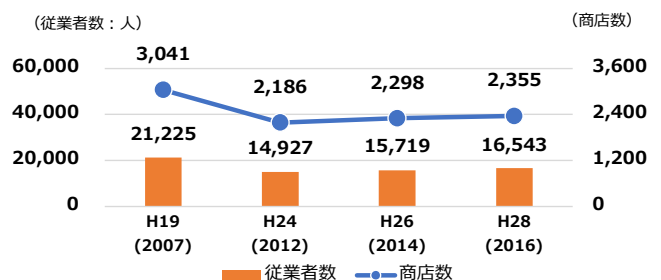
商品販売額



工業事業所・従業者数



商店・従業者数

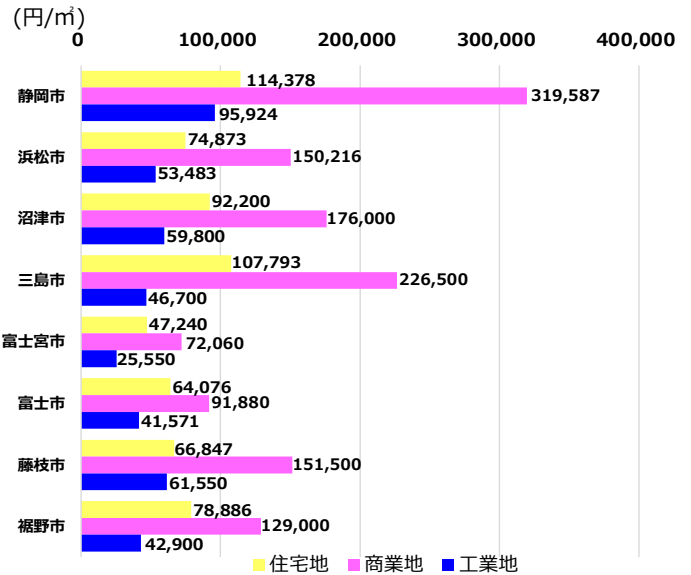
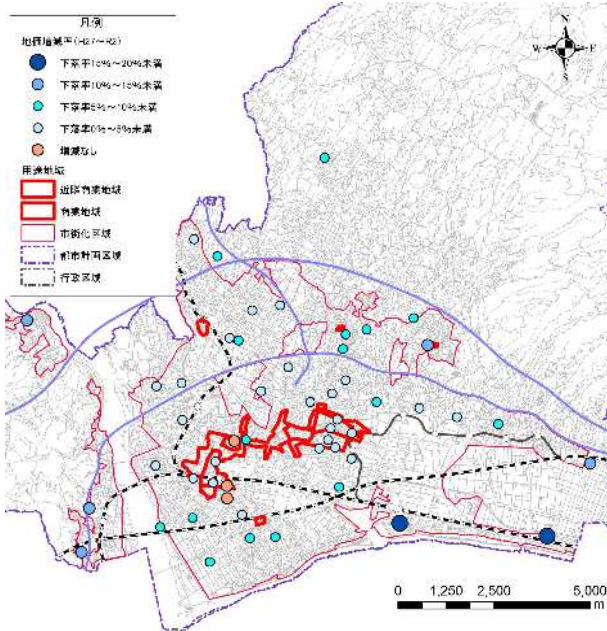


出典：富士市の工業

出典：富士市の商業

- H27（2015）年からR2（2020）年にかけて、全地点で減少、もしくは現状維持
- 県内他市の地価と比較すると、住宅地・商業地・工業地の全てで低い水準

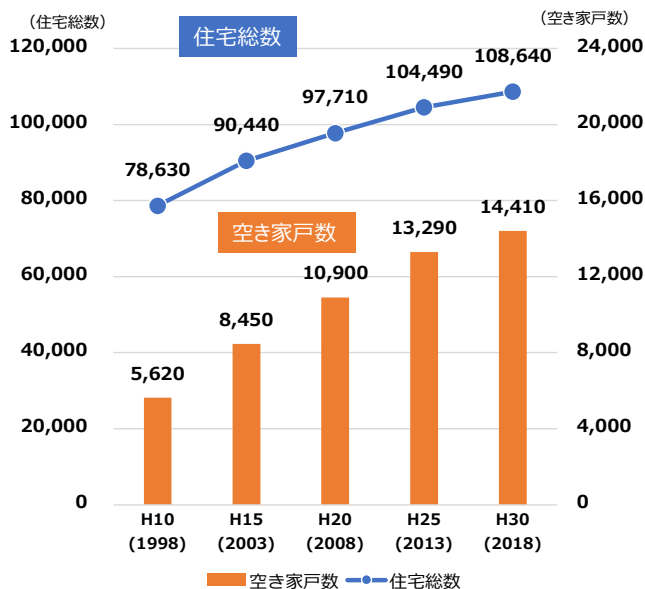
≪ 富士市の地価の状況（H27-R2） ≫ ≪ 県内他市の地価の状況（R2） ≫



出典：国土数値情報

- 住宅総数、空き家戸数ともに増加傾向
- 新富士駅南土地地区画整理、富士山フロント工業団地第2期、第二東名IC 周辺土地地区画整理等の大規模開発を事業中

≪ 住宅総数・空き家戸数 ≫



出典：住宅・土地統計調査

≪ 大規模開発の状況 ≫

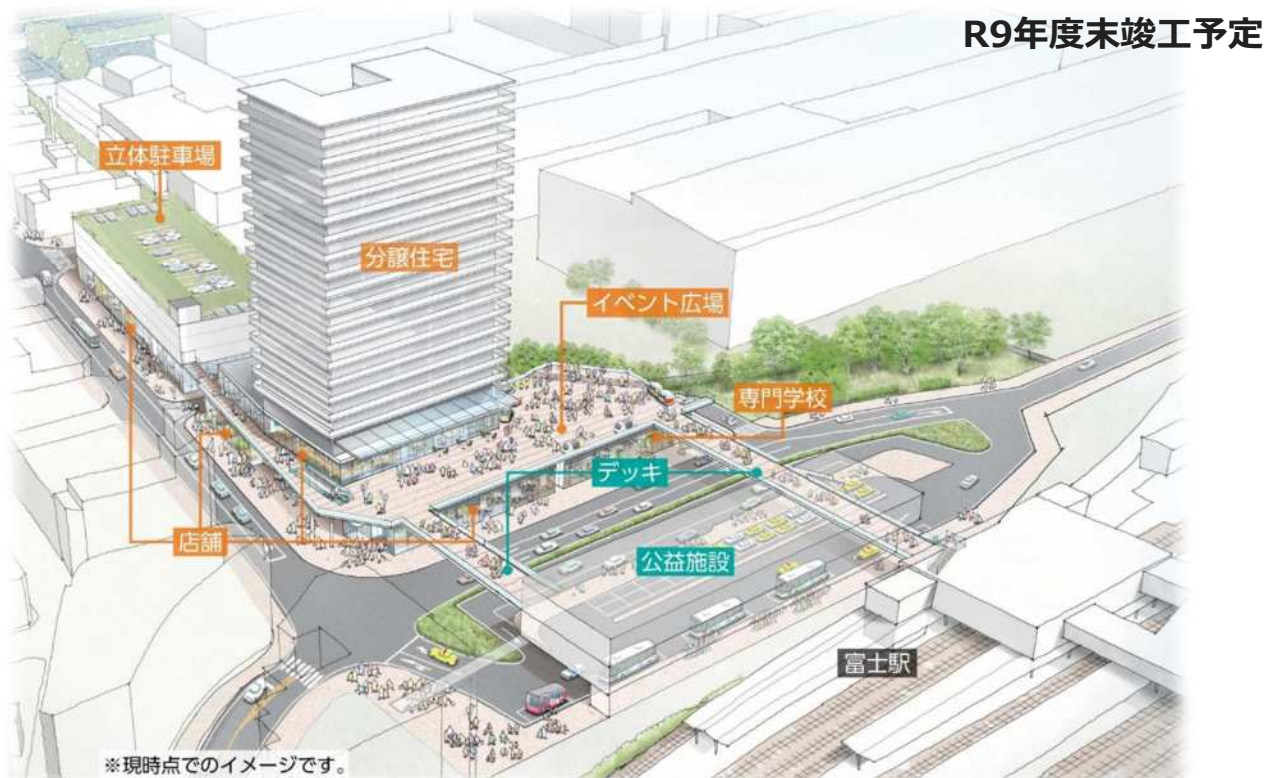


新富士駅南地区
土地地区画整理事業



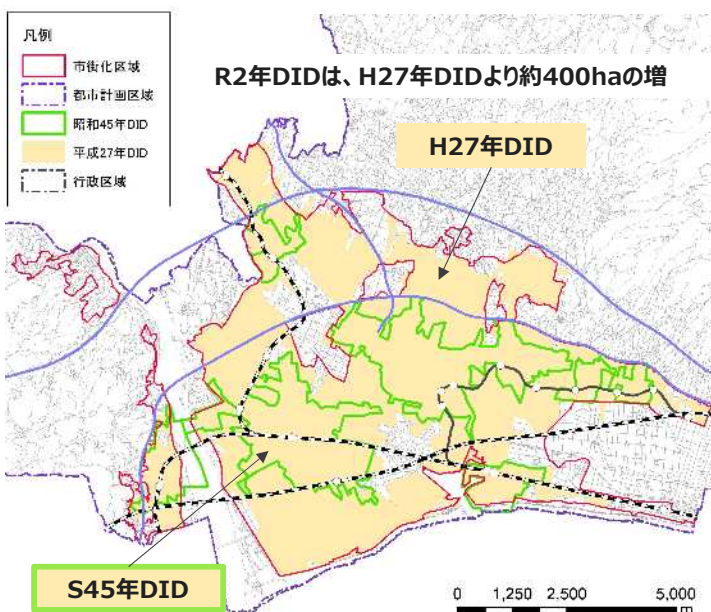
富士山フロント工業団地
第2期整備事業

- 富士駅北口周辺では、市街地再開発事業が予定されている

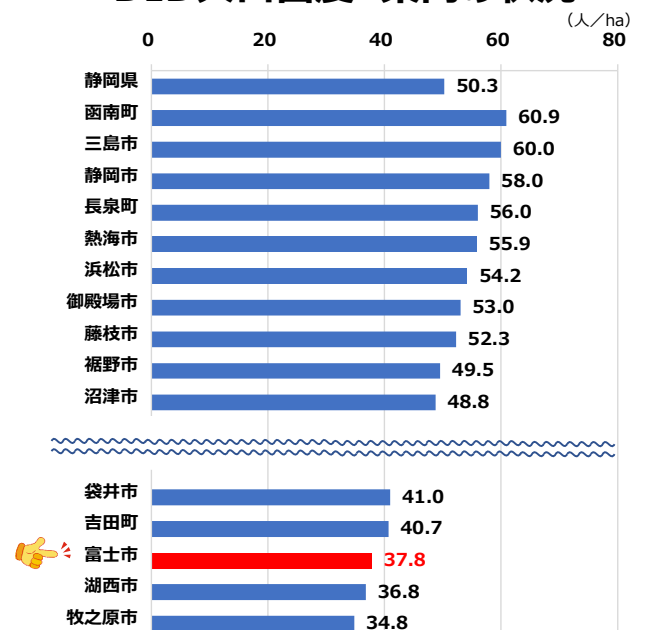


- 人口集中地区は、郊外部に拡散している
- 人口密度は、県内のDIDが存在する市町の中で3番目に低い

◀ 人口集中地区 (DID) ▶



◀ DID人口密度 県内の状況 ▶



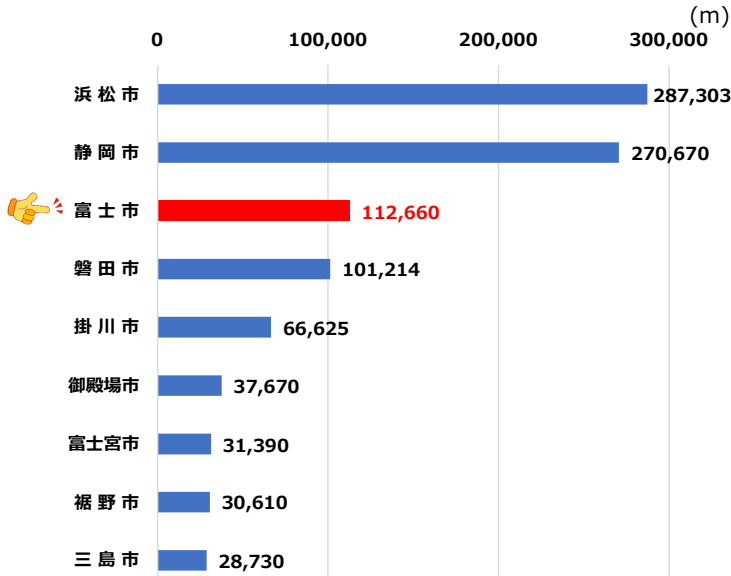
出典：国勢調査(R2)

※人口集中地区 (DID) とは、国勢調査における人口密度が1ヘクタールあたりおおむね40人以上の地区のことです

5 都市交通

- 都市計画道路の改良済延長は112,660mで、県内で3番目に多い
- 富士市民の交通手段分担率は、自動車利用の割合が約74%と高く、自動車依存型

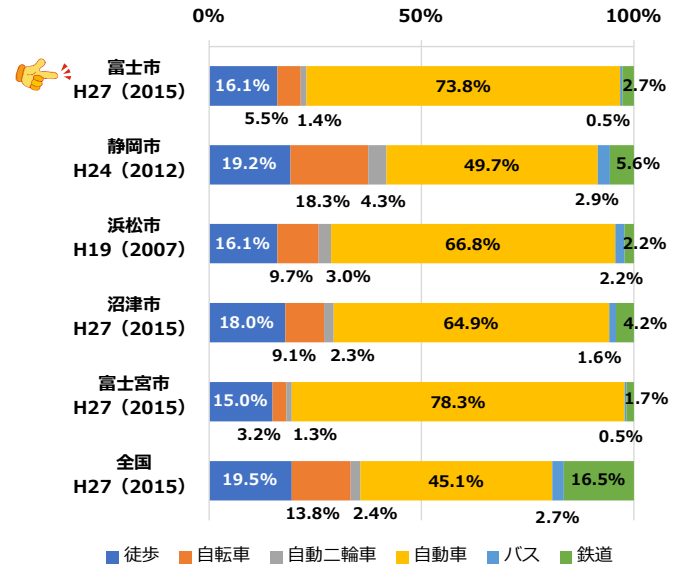
「都市計画道路の改良済延長」



※県内の主な都市

出典：静岡県の都市計画

「交通手段分担率」



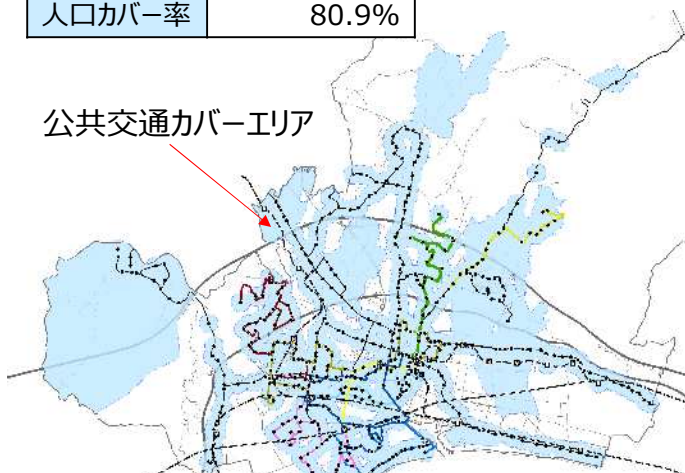
出典：各PT調査

5 都市交通

- 公共交通人口カバー率は、80.9%
- 路線バス、コミュニティバスの利用者数は減少傾向

「公共交通カバーエリア」

人口	204,277人	R2.4.1現在
面積	9,834.7ha	
人口カバー率	80.9%	

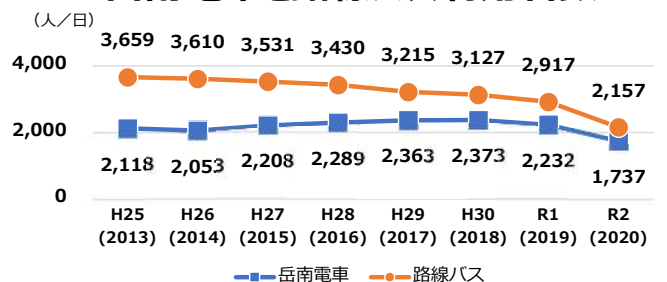


公共交通カバーエリア

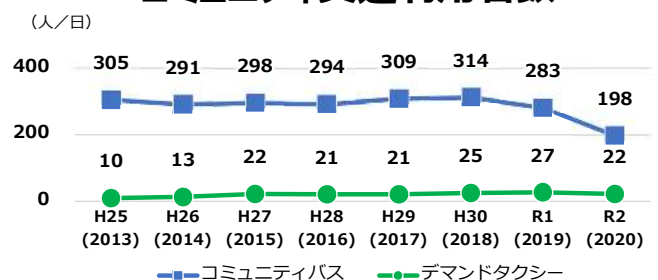
※公共交通カバーエリア
…鉄道駅及びバス停から300m圏域+デマンドタクシー運行圏域

出典：市資料

「岳南電車と路線バス利用者数」



「コミュニティ交通利用者数」



出典：富士市統計書

5 都市交通

- バスロケーションシステムの導入など、ICT を活用した利用環境の改善を図っている



(GPSで路線バス運行状況を把握)



スマートフォン・PC



吉原中央駅 待合室

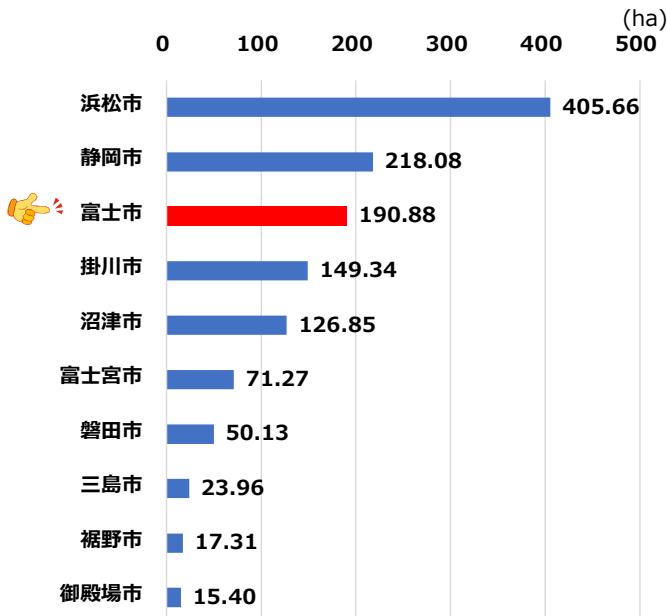


富士市役所バス停

6 都市環境

- 都市計画公園の供用面積は190.88haで、県内で3番目に多い
- 温室効果ガス排出量は目標を上回る削減傾向

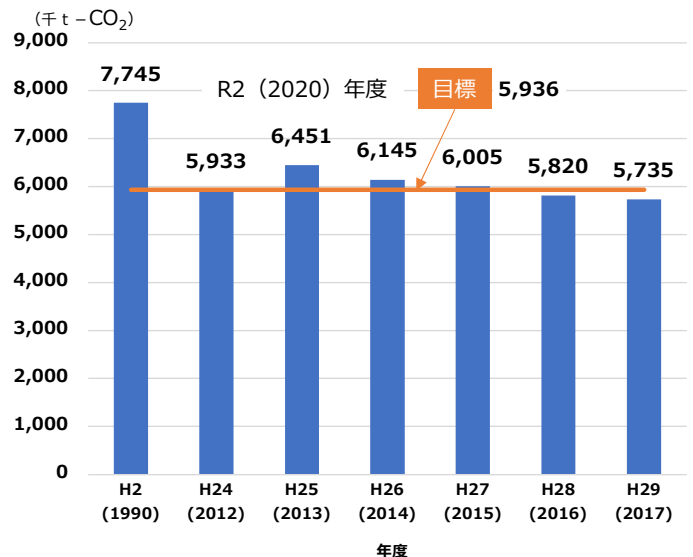
《 公園の供用面積 》



※県内の主な都市

出典：静岡県の都市計画

《 温室効果ガス排出量 》

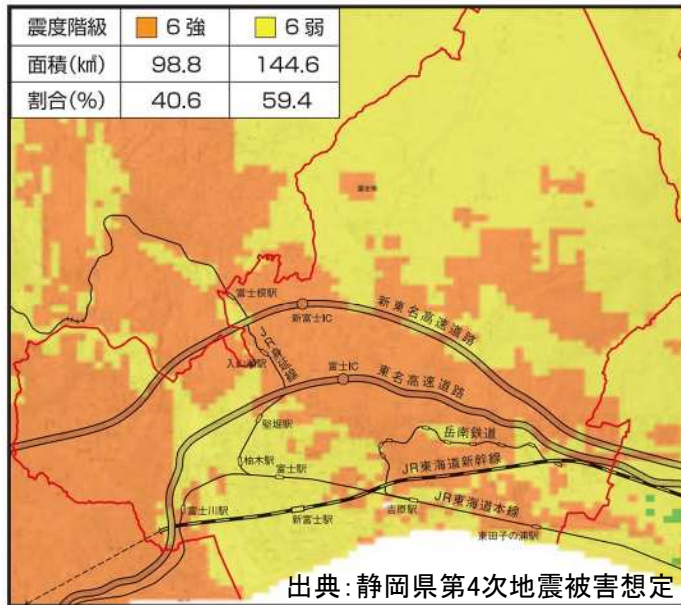


出典：令和3年富士市環境報告書（令和2年度実績）

7 都市防災

- 地震・津波・土砂災害・洪水等による大規模災害の危険性の存在
- 南海トラフ地震により、市内では震度6弱～6強の想定
- 不適正な土砂埋立て地の存在

≪ 防災マップ ≫



≪ 不適正な土砂埋立て地 ≫

【大淵地区①】



【大淵地区②】



7 都市防災

- 田子の浦港では、第3波除堤の機能強化により、津波の港内への流入量を軽減させる事業を進めている

田子の浦港周辺航空写真

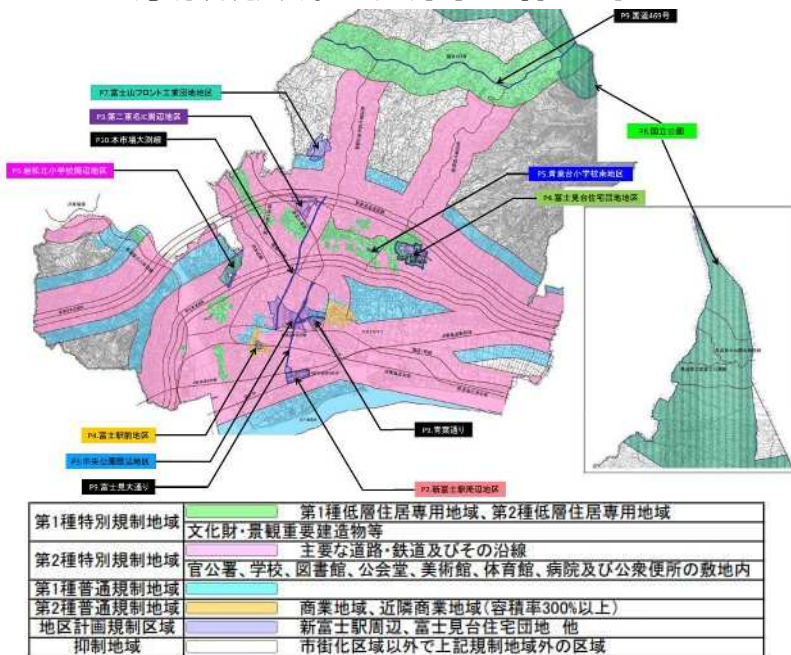


～ 期待される
4つの効果 ～

- ① 人的被害(死者数)を限りなくゼロに
- ② 逃げるための時間を稼ぐ
- ③ 浸水面積が約4分の3に減少
- ④ 住宅・事業所被害額が概ね半減

- 景観計画や富士市屋外広告物条例等により、良好な屋外広告物の誘導など、良好な景観づくりの取組を進行

◀ 景観形成型広告整備地区 ▶



出典：景観形成型屋外広告整備地区パンフレット

◀ 景観賞 ▶

【富士市広告景観賞2019大賞 鯛屋旅館】



【煙突撤去前後の景観】



5. 市民の意向

- ▶ 調査の概要
- ▶ 調査結果

- 富士市の印象や、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う生活の変化、将来望む富士市の姿などの市民ニーズを把握し、富士市都市計画マスタープラン策定の参考にするため、次の調査概要のとおり、アンケート調査を実施しました。

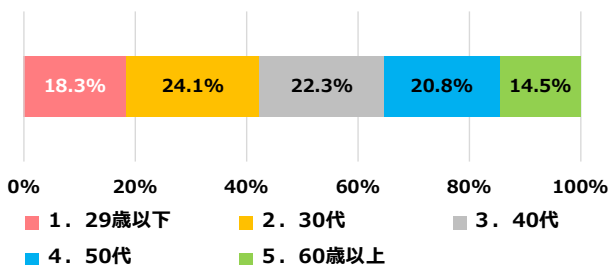
「 調査の概要 」

対象	富士市在住の15歳以上の男女3,000名を無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収またはWebによる回答
調査期間	令和3年10月4日～令和3年11月2日
標本数	3,000 票
有効回収数	960 票 (うちWeb回答935 票)
有効回収率	32 %

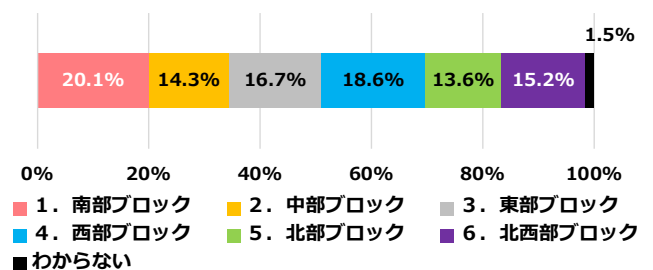
回答者の属性

- 回答者の年齢構成は、30代が最も多く24.1%
- 回答者の居住地構成は、南部ブロックが最も多く20.1%
- いずれの年齢、居住地とも概ね15～20%の割合でバランスの良い回答

「 回答者年齢構成 」



「 回答者居住地構成 」

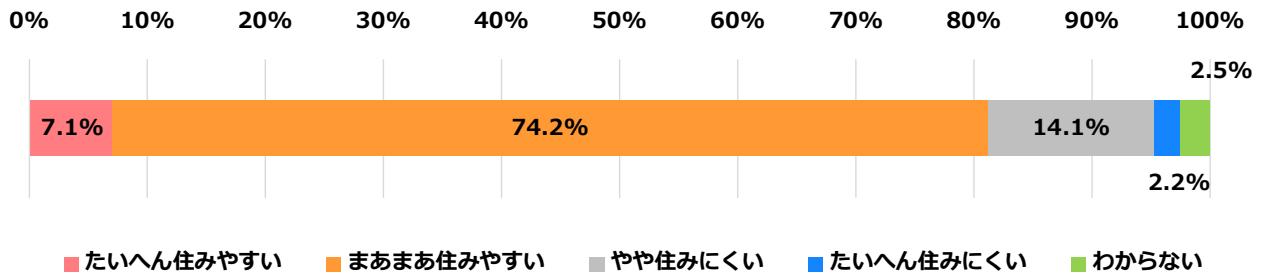


- 南部ブロック：富士駅北、富士北、富士駅南、田子浦、富士南
- 中部ブロック：吉原、伝法、今泉、青葉台
- 東部ブロック：吉永、元吉原、須津、浮島、原田
- 西部ブロック：岩松、岩松北、富士川、松野
- 北部ブロック：富士見台、神戸、吉永北、大淵
- 北西部ブロック：鷹岡、広見、天間、丘

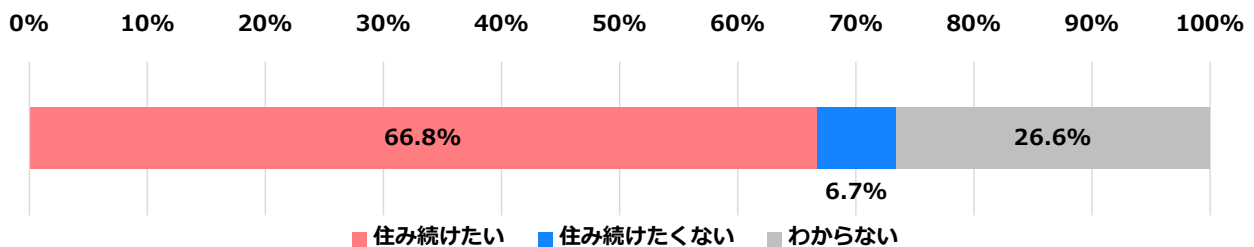
富士市の印象

- 80%以上の方が「住みやすい」と回答
- 66.8%の方が「住み続けたい」と回答

《 住みやすさ 》



《 継続居留意向 》

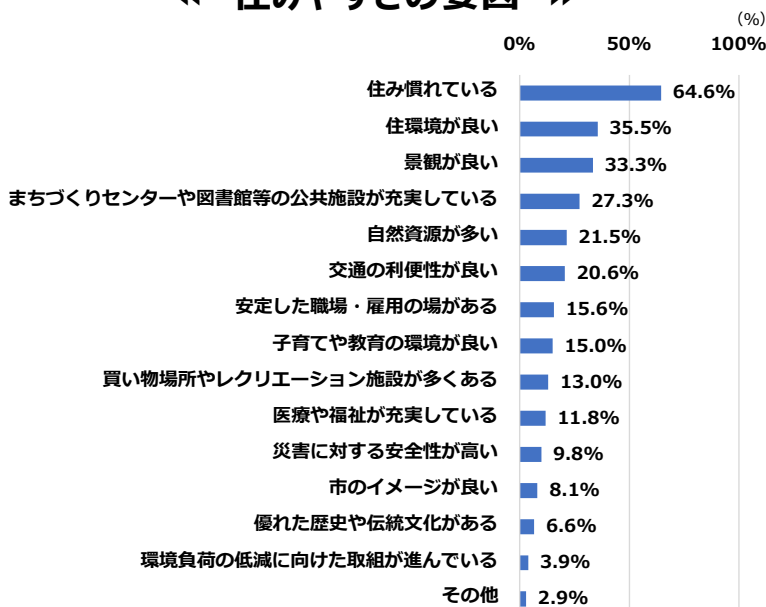


43/56

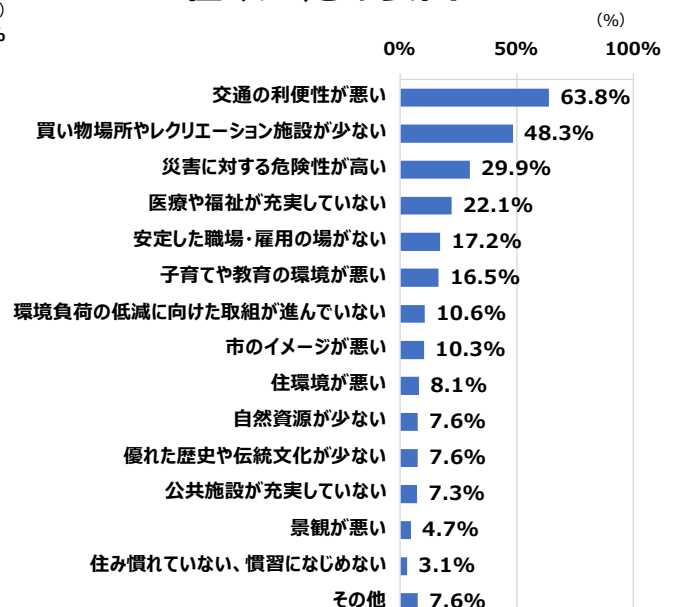
富士市の印象

- 住みやすさの要因は、「住み慣れている」、「住環境が良い」との回答が多い
- 住みにくさの要因は、「交通の利便性が悪い」、「買い物場所やレクリエーション施設が少ない」との回答が多い

《 住みやすさの要因 》



《 住みにくさの要因 》

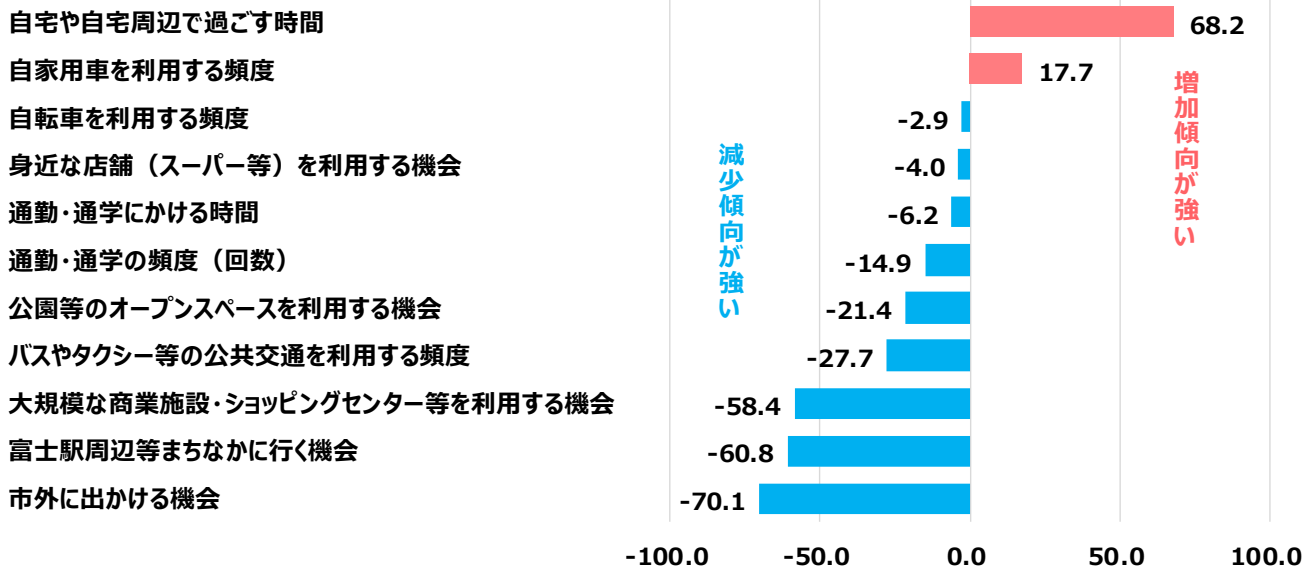


44/56

生活の変化（コロナ禍）

- コロナ禍前からコロナ禍では、「自宅や自宅周辺で過ごす時間」と「自家用車を利用する頻度」が増加し、「市外に出かける機会」や「富士駅周辺等まちなかに行く機会」、「大規模な商業施設・ショッピングセンター等を利用する機会」等が減少

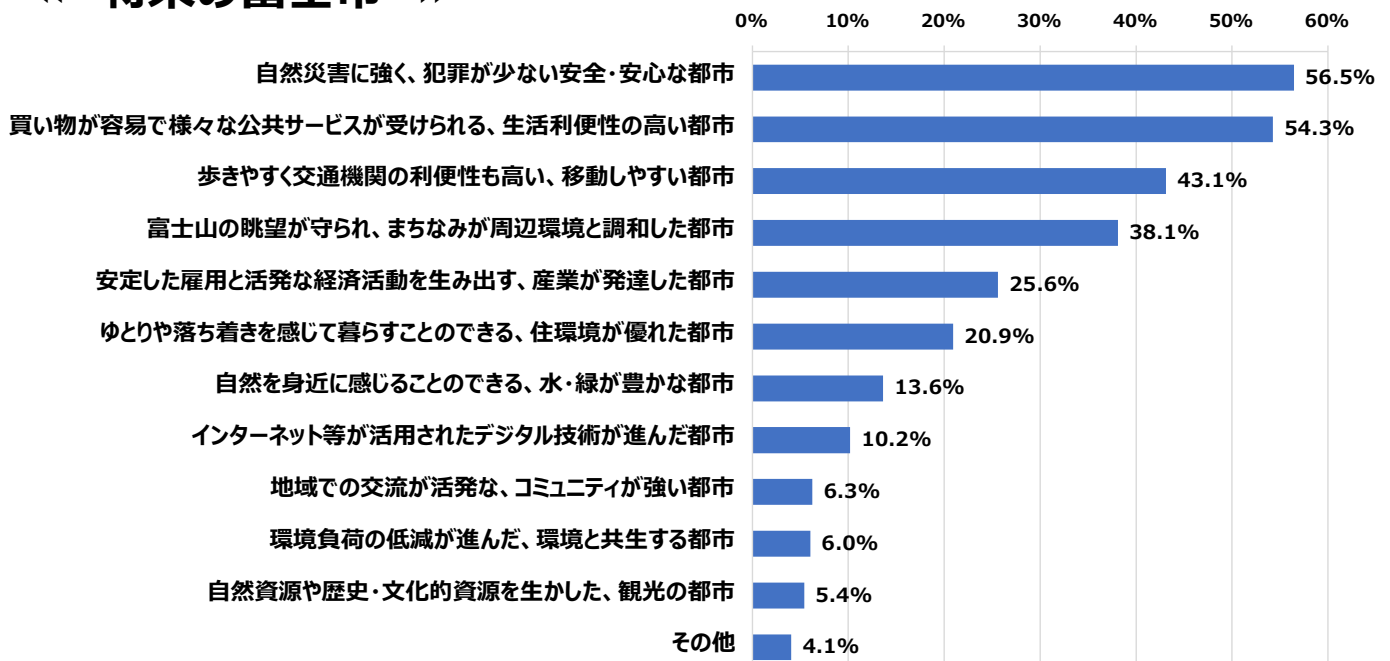
《 コロナ禍前からコロナ禍における生活様式の変化（加重平均） 》



将来の富士市

- 市民が望む「将来の富士市の姿」は、「安全・安心な都市」が最も多く、次いで「生活利便性の高い都市」、「移動しやすい都市」となっている

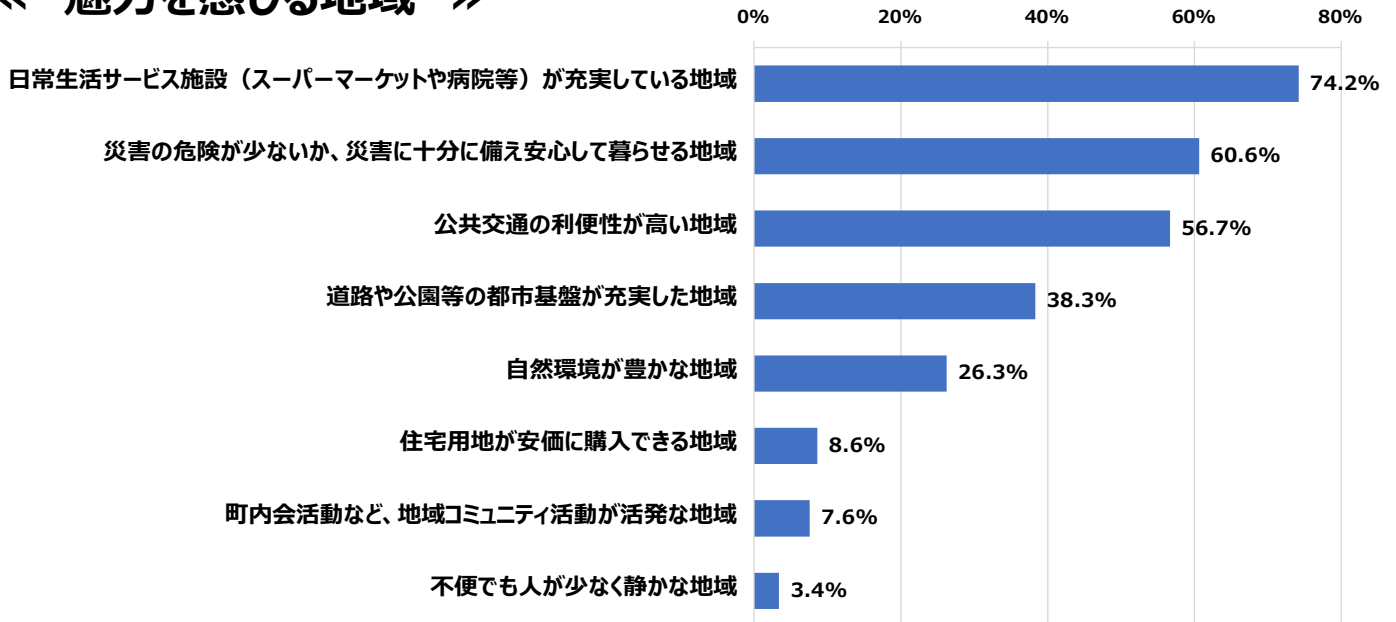
《 将来の富士市 》



魅力を感じる地域

- 市民の「魅力を感じる地域」は、「日常生活サービス施設が充実している地域」が最も多く、次いで「安心して暮らせる地域」、「公共交通の利便性が高い地域」となっている

◀ 魅力を感じる地域 ▶



47/56

6. 都市づくりの動向・トレンド

▶ 都市づくりの動向・トレンド

48/56

- 富士市を取り巻く環境として、都市づくりの動向・トレンドを確認しました。

1 コンパクト・プラス・ネットワーク

2 安全・安心まちづくり（災害の激甚化・頻発化）

3 持続可能なまちづくり（SDGs）

4 脱炭素（カーボンニュートラル）社会

5 新型コロナがもたらすニュー・ノーマル

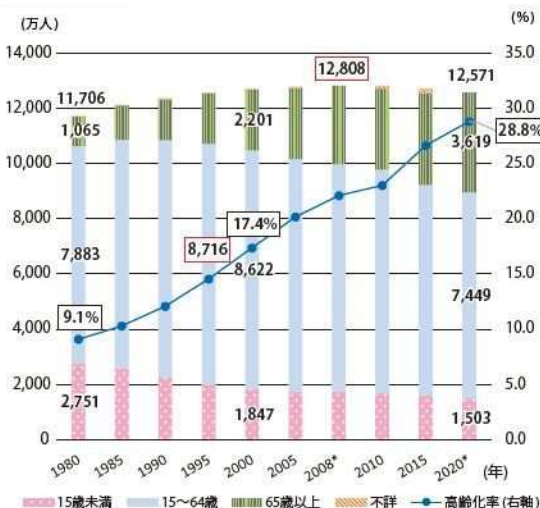
6 高速交通ネットワーク

7 デジタル社会（DX：デジタル・トランスフォーメーション）

1 コンパクト・プラス・ネットワーク

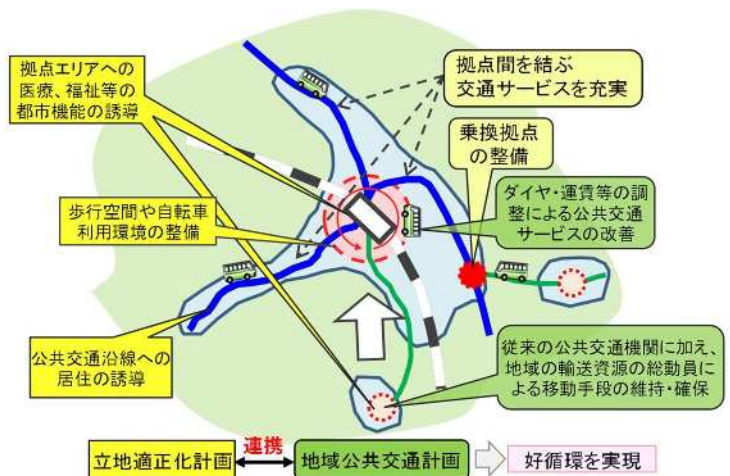
- 人口減少や市街地の拡散等により生活サービス施設の撤退や公共交通の縮小・廃止
- 空き地・空き家等の低未利用地が増加(都市のスポンジ化)
- 市はH31(2019)年3月に「富士市立地適正化計画」、R3(2021)年3月に「富士市地域公共交通計画」を策定

総人口、年齢階層の推移



出典：国土交通白書2021

立地適正化計画・地域公共交通計画



出典：国土交通省資料（一部加工）

2 安全・安心まちづくり（災害の激甚化・頻発化）

- 地震、土砂災害、豪雨洪水等の様々な災害の激甚化・頻発化
- 今後数年で発生が予測される南海トラフ巨大地震や首都直下地震の懸念
- 市は令和2年9月に「富士市国土強靱化地域計画」を策定

平成26年以降に発生した主な災害



出典：国土強靱化を進めよう！（一部加工）（①～④）、静岡県HP（⑤）

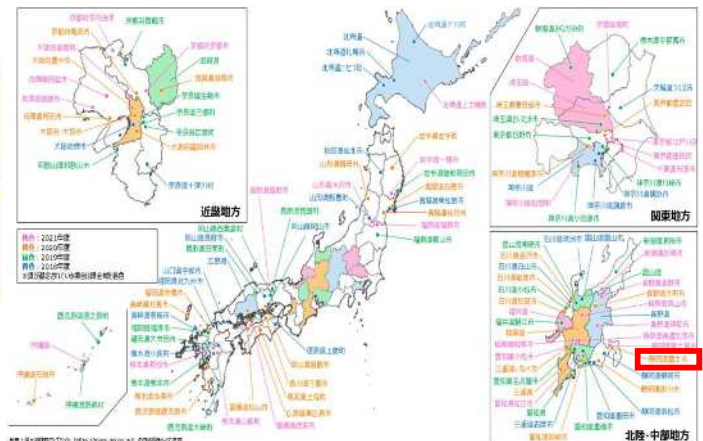
3 持続可能なまちづくり（SDGs）

- 「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指す世界共通の目標として、国連はH27(2015)年9月にSDGs（持続可能な開発目標）を採択
- 国はR 2 (2020)年7月に富士市を含む全国の125自治体を「SDGs未来都市」に選定
- 市はR 2 (2020)年9月に「富士市SDGs未来都市計画」を策定

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs未来都市の全国マップ

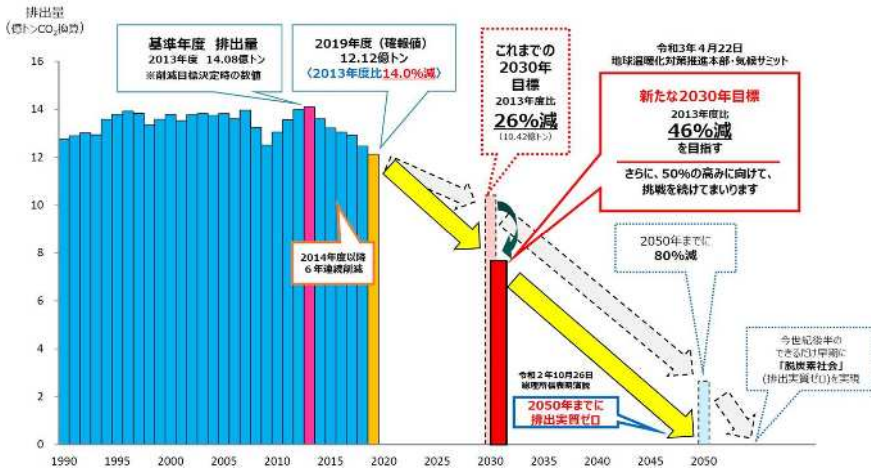


出典：地方創生に向けたSDGsの推進について（内閣府地方創生推進室）

4 脱炭素（カーボンニュートラル）社会

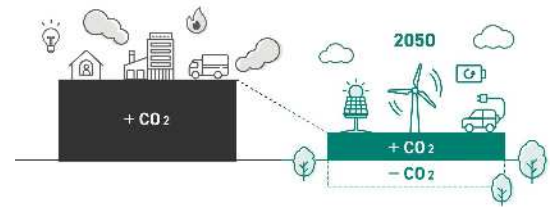
- 国際的な気候変動問題に対し、温室効果ガス排出量削減の実現に向け、削減目標等を定めたパリ協定が196カ国間で締結
- 国はR元(2019)年にパリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略を策定、この戦略に基づきR3(2021)年に地球温暖化対策計画の改定
- 市はR3(2021)年4月に「富士市ゼロカーボンシティ宣言」を行う

我が国の温室効果ガス削減の中期目標と長期目標の経緯



出典：環境省資料

カーボンニュートラルのイメージ



出典：環境省HP

5 新型コロナがもたらすニュー・ノーマル

- 新型コロナウイルス感染拡大を受け、国は令和2（2020）年に「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性」を整理
- 市では令和元（2019）年にウォーカブル推進都市となり、居心地が良く歩きたくなるまちなかを創出するため、富士駅北口周辺において、市街地の再整備に合わせたまちなか空間を活用する取組の推進

新型コロナ危機を契機とした今後の都市政策の方向性（国土交通省資料 ※要約）

- 大都市、郊外、地方都市それぞれの特性を活かし、働く場と居住の場の融合に対応したまちづくり、まちづくりと一体的な交通体系の構築
- 新型コロナ危機によって急激な社会の変化を経験した教訓を踏まえた、柔軟性、冗長性を備えたまちづくり
- オープンスペースの柔軟活用とネットワーク形成によるウォーカブルな空間の充実

新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性



出典：国土交通省HP（一部加工）

ウォーカブルなまちづくり
(居心地が良く歩きたくなるまちなか) のイメージ



出典：国土交通省HP（一部加工）

6 高速交通ネットワーク

- 東京、名古屋、大阪の三大都市圏を1時間で結ぶリニア中央新幹線の整備が行われている
- 世界を先導するスーパー・メガリージョンの形成が進められる
- 本市においては、「こだま」のみが停車する新富士駅の利便性向上と、周辺地域の新たな発展の可能性が期待

リニア中央新幹線による鉄道一日交通圏の拡大



出典：第六次富士市総合計画

55/56

7 デジタル社会（DX：デジタル・トランスフォーメーション）

- 社会システムの維持や持続的な成長を確保するため、国はデジタル庁創設によりDXを推進
- 暮らしにおける魅力的な都市サービスの提供など、社会課題の解決にデジタル技術を積極活用する動きがみられる
- 市はR2(2020)年8月に「富士市デジタル変革宣言」を行う

自動運転バス



出典：茨城県境町

顔認証で手ぶら観光



出典：南紀白浜IoTおもてなしサービス実証事務局HP)

56/56